

4月	高校生の自覚 中学の恩師への手紙
5月	適性検査
6月	インターンシップ・仕事のまなび場 の申し込み
7、8月	インターンシップ・仕事のまなび場・ オープンキャンパス実施
9月	インターンシップ・仕事のまなび場・ オープンキャンパスの成果発表 適性検査の振り返り
11月	リクルート講演「働くことの楽しさ・意義」 『じぶん未来BOOK』とワークシート
12月	『じぶん未来BOOK』を読む 職業人インタビュー
1月	職業人インタビューの発表

1年次のキャリア教育の狙いは「視野を広げる、自己を見つめる(目的意識の向上)」。「中学の恩師への手紙」やインターンシップなどの体験学習で、生徒は自己を見つめ少しずつ成長する。そして、リクルートの講演と『じぶん未来BOOK』、職業人インタビューで視野を広げる。職業を知らないことで3年次になってからなかなか希望の職種を決められないケースも少なくなく、そこを打開したいというの導入した理由のひとつ。



キャリア支援グループ
主任
小川誠先生



キャリア支援グループ
山口順子先生

2年次の総合的な学習の時間は研修旅行についての学習が中心になる。そして来年度は初めて3年次での総合的な学習の時間が始まる。「1・2年次で学んだことを生かして、社会性を身につけられるようなプログラムを考えたいです」(山口先生)

講演で意識づけをしてから『じぶん未来BOOK』へアクセス 冬休みの職業人インタビューにつなげる 神奈川・県立三浦臨海高校

三浦臨海高校は単位制による普通科高校。1年次は履修科目の大部分を指定することにより基礎学力の充実を図り、2・3年次では多様な選択科目を配置して個に応じたきめ細やかな教育を展開している。

「進路先が多岐にわたるため、キャリア教育は様々な進路希望に対応できるように行っています」と言うのはキャリア支援グループ主任の小川誠先生。「例えば、2年次の研修旅行先はテーマ別に3コースあり、テーマが『国際』ならば福島英語圏の文化を学べる施設に、『郷土』は関西方面『平和』は沖縄と興味関心によって選べます」

45分という短い時間を有効に活用できる本

「多様な進路に応じたキャリア教育」は1年次の体験学習にも生かされている(左図)。夏にはそれぞれ希望に応じて、インターンシップ、仕事の学び場(神奈川県専修学校各種学校協会による体験学習講座)、オープンキャンパスのいずれかに参加。冬休みには各自が興味のある職業人にインタビューし、年明けに発表会を行っている。

キャリア教育は主に総合的な学習の時間で実施される。これまでは1・2年次で3単位(1コマ90分)の履修だったが、昨年度の1年次より、3年間か

けて3単位(1コマ45分)の履修に変更。3年次でもしっかりキャリア教育を続けていきたいという狙いがあったためだが、90分から45分への変更で講演会やじっくり取り組みたい調べ学習などは導入しづらくなった面もある。短い時間で何をするのが有効かを考え、昨年度初めて、リクルートによる講演「働くことの楽しさ・意義」と、『じぶん未来BOOK』を導入した。

気になる人が載っているから「読む・書く」力も育てられる

当時、キャリア支援グループで1年次を担当していた山口順子先生は言う。「総合学科の横浜清陵総合高校から三浦臨海へ転任してきました。総合学科の『産業社会と人間』から課題研究へと続くキャリア教育は、確かに生徒を成長させるという実感があつたので、少ない時間ながら本校でも何か生徒の視野を広げるような効果的なキャリア教育ができないか模索していたのです」

前任校でインターンシップを通じて生徒が成長する姿を見ていた山口先生は、三浦臨海高校でも生徒たちに「勉強になるから」と強く勧め、前年を上回る約30人が参加。仕事の学び場にも約60人が参加した。もし参加できずともせめて働く人の声を聴いてほしいと、職業人インタビューにも力を入れた。

働くことについての講演会の後、職業人インタビューの事前学習として『じぶん未来BOOK』の興味のある職業人のページを読む。そして職業観育成ワークシートに取り組み。どんな人にインタビューしたいのか、何を聞きたいのかを考える材料とした。

「生徒たちはよく読みました」と山口先生。「講演会で意識づけできたのも因ですが、興味のある職業人が載っている、写真がいい、高校生が取材しているといったことが、興味を引いたのだと思います。『夢はかなえるために』と語っていたパティシエの方のページなどは人気があつたようです」

保護者へのインタビューも一歩踏み込んだ深い内容に

冬休み中にもなるべく読むように促したところ、二冊すべてを読んで「ひと言感想シート」に感想を記した生徒もいたそう。『じぶん未来BOOK』は職業人インタビューの内容を深めるのに役立つようです」と山口先生。

なお、職業人インタビューはなるべく保護者以外でと指導したが、結果的には保護者に話を聞いた生徒も少なくなかった。当時、1年次の担任をしていた土屋尚子先生は言う。「保護者相手でも、仕事のやりがいなどをきちんと聞いていたようです。年齢的にふだんそれほど話をしない生徒も多いでしょうが、仕事について親子で深く話をする機会になったようで、逆によかったと思います」

スクールデータ

生徒数 / 688人
(男子195人・女子493人)
単位制普通科18学級
進路状況(2012年度) /
大学進学14.2%、短大進学3.9%、
専攻進学等39.2%、
就職14.7%、その他28%

神奈川県三浦市初声町入江274-2
電話 / 046-889-1771
http://miurainkai-h.pen.kanagawa.ed.jp/